

# 13. 維管束植物

## 《概要》

維管束植物の節はシダ植物と種子植物からなる。維管束植物は、「レッドデータブックとっとり」の初版（2002）では絶滅の危険性解説を重視して、シダ植物・種子植物全体を一括して絶滅危惧カテゴリー順に掲載された。2012年の改訂版では種の検索性を重視し、絶滅危惧カテゴリーではなく新エングラ体系に準拠した配列に変更された。今改訂ではさらに APG 分類体系に基づいた体系と種の配列（邑田・米倉 2012）に変更している。結果的に刊行のたびに種の配列が変更されたことになり、冊子を引いて歴代のカテゴリー変遷を追う際に不都合が生じている。ご不便をおかけする点にはご容赦いただければ幸いである。なお維管束植物の学名は、基本的に「植物和名一学名インデックス YList」（米倉・梶田 2003-）を採用している。

鳥取県に自生する維管束植物のリスト化は、2000 年以前から「鳥取県植物誌調査会」により調査と整理が続けられてきた。特にレッドデータブックとっとり初版（2002 年）に向けた集中的な調査により自生記録に多くの知見がもたらされた。当時はとりまとめまで至らなかったものの、その後も調査はすすめられ、2010 年代の 10 年間にもダイセンアシボソゲの 40 年ぶりの確認（永松ほか 2013 など）やクラガリシダの県内での再発見（永松ほか 2018）など多くの発見が続いている。2020 年までに、鳥取県内に自生する維管束植物として 2200 種近くが確認（ただし外来種や雑種も含む、鳥取県植物誌調査会 私信）されており、近い将来に公表される計画である。今回の維管束植物改訂では、この自生植物暫定リストをもとに検討を進めた。

今回の改訂で維管束植物の選定種はシダ植物 59 種、種子植物 432 種の計 491 種となり、2012 年版の 404 種、2002 年版の 330 種から 2 回連続で増加した。このうち「絶滅」は 11 種（野生絶滅 2 種を含む）で 2012 年版の 12 種から減少した（内容は後述）。「絶滅危惧 I 類」は 119 種（2012 年版では 104 種）、「絶滅危惧 II 類」は 167 種（同、133 種）、「準絶滅危惧」は 157 種（同、132 種）、「情報不足」は 18 種（同、8 種）、「その他の重要種」は 19 種（同、15 種）と絶滅以外の全てのカテゴリーで選定種は増加した。県内に自生する在来の維管束植物の概数として仮にシダ植物を 230、種子植物を 1700 とすると、県内の既知種数に対するシダ植物の掲載種比率は 25.7%、種子植物では 25.4%となった。絶滅危惧 I 類と II 類をあわせた種数の既知種数に対する比率はシダ植物で 16.1%、種子植物で 14.6%である。

維管束植物で今回初めて掲載された種は 105 種あった。前回 2012 年版の掲載種のうち 12 種はその後の調査で差し迫った危険は低いと評価され、今回の選定種から外された。12 種はウスバサイシン、ヒロハテンナンショウ、イ

トモ、ミヤマウズラ、クモキリソウ、コ克蘭、オオキツネノカミソリ、ウキヤガラ、ナツトウダイ、ヒゴスミレ、ギンリョウソウモドキ、エゾノヨツバムグラで、これらを絶滅のおそれが十分低いと評価できるようになったのは喜ばしいことである。このほか、前回 2012 年版に掲載されていた 6 種は、その後の調査研究により県内での自生が確認できないと判断され、今改訂でリストから除外された。これら 6 種のうち、ヒメイバラモはこれまでの調査努力と県外の専門家の見解、ヒメナベワリとマシカクイは誤同定であることの確定、ケスゲとイワタケソウは県外の専門家による再同定での否定的見解、テリハアザミは種の特徴を持った個体がなく、過去を含め県内に確実な記録がない、ことが非選定の理由である。

今回、絶滅種として新たに 3 種を掲載した。これらは今改訂で初めて状況が検討され、新たに絶滅種と判定された種で、ハマビシ、ヒメビシ、カイジンドウである。3 種とも過去に県内に自生していた記録があるが、その後長期にわたり県内では見つかっていない種である。

今改訂で初めて掲載された種のうち、33 種は絶滅危惧 I 類と判定された。その多くはこの 10 年間に県内で新規に発見された種で、オオバシナミズニラやスブタ類など水田等に生育する種やマメツタランやヒトツバキソチドリ、ヒナチドリやクモランといったラン類がその例である。マイヅルテンナンショウ（松本・坂田 2020）やナギヒロハテンナンショウ（小林 2017）など、県外の研究者との共同研究による発見も続いている。調査者の方々の努力には頭が下がる思いである。

前回 2012 年版で絶滅危惧 I 類と評価した 104 種の中で今改訂までの 10 年間に絶滅した種は幸いにもなかった。対象種の状況を個別に検討し、今改訂では 76 種は引き続き絶滅危惧 I 類のままにおいたが、24 種は絶滅危惧 II 類に評価を緩めることができた（他 4 種は誤同定など）。このような種の例としてチャボゼキショウ、キンセイラン、ギンラン、トケンラン、ジガバチソウ、ヤマトキソウ、バイカモ、ノウゴウイチゴ、ヒトツバハギ、サンベサワアザミなどがある。これらは調査努力によって新たな生育地が見つかったり、継続的な調査によって生育の安定性が認められたことが背景となっており、ほとんどの場合、種の生育環境自体が改善したわけではないことに留意が必要である。

この 10 年間に起こった喜ばしい点として、2012 年版では絶滅と判定していた 4 種が県内で再発見され、今回は絶滅危惧 I 類に位置づけることができたことをあげられる。4 種はクラガリシダ、ヤナギスブタ、ダイセンアシボソゲ、アサザである（永松ほか 2016, 2018）。

一方で、前回から状況が悪化し、絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類へとカテゴリー評価を厳しくした種が5種ある。タケシマラン、シオクグ、オオシラヒゲソウ、イソスミレ、イワギリソウである。これらに加えて、コイヌガラシはカテゴリー評価を準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。絶滅可能性が増した主な原因はニホンジカの食害や異常気象による自然災害、人間による自然改変や利用放棄、園芸採取など多岐にわたる。ここにあげた種は特に個体数の減少、生育環境の悪化が認められているため、早急に有効な対策を取る必要がある。

前回2012年版で絶滅危惧Ⅱ類とした133種のうち、105種は今改訂でも同じ評価を継続し、22種は準絶滅危惧に評価を緩めることができた。一方で33種を新たに絶滅危惧Ⅱ類として掲載した。これらには最近10年間に県内で新たに発見されたタカネコウボウやスズシロソウ、ヒノキバヤドリギ等が含まれる。加えて、5種は準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類に評価を変更した。5種はジンバイソウ、ミクリ、タジマタムラソウ、サワギキョウ、ウスユキソウであり、それぞれ希少化がすすんでいる。

今改訂では希少化の要因や生育環境の特徴に関する検討はできていない。しかし全国での傾向と同様に、維管束植物の選定種には水辺環境や山地草原に生育する植物が多く取り上げられている。水辺の植物では前述の通りこの10年に多くの発見があった。この成果としてトチカガミ科の水生植物10種など多くの種の状況を検討し、今回のRDBに掲載することができた。現在、主に防災の観点からため池の廃止など半自然の水湿地環境が急速に変化しているため、水辺の植物については引き続き精力的な調査研究が望まれる。

山地草原に関しては、保護上の留意点にその保護保全があげられているものが20種以上ある。これは、人間活動により維持されてきた半自然草原の減少が様々な維管束植物の維持・存続に影響を及ぼしている状況を反映したものである。

加えて鳥取県内では、現在ニホンジカの食害が大きな問題となっている。ニホンジカは特に県内東部で生息密度が高く、森林の下層植生や山地草原の植物相を貧弱化させている。例えば林床に生育することが多いシダ植物は、さまざまな種がシカの採食により希少化し、その存続が大きな問題となっている。山地の草本類でも多くの種で個体数の減少が報告されている。この結果、維管束植物全体で60種以上の保護上の留意点に「ニホンジカの適正管理」があげられている。鳥取県では指定管理鳥獣捕獲等事業などを通じてニホンジカの個体数調整がすすめられているが、維管束植物保護の現場では、植物を絶滅から守るための緊急措置も必要となっている。例えば2021年には、タケシマランとオオバミゾホオズキをシカ食害から守るための小型柵が設置された。個別・直接的できめ細かな対策と、レッドデータブック編集で集約された情報を活かして視野を広げた総合的なとりくみを両輪に、今後ますます生物多様性維持にむけたとりくみをすすめていく必要がある。

(永松大)

\* 個別種の解説の「特記事項」に関する注釈

『鳥取県条例採取禁止指定種』（鳥取県特定希少野生動植物）は、鳥取県が定める鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例に基づき、とくに保護を必要とし、捕獲や採取の禁止、また保護管理事業の対象とする種を指します（2022年6月28日公示により指定）。

『国立・国定公園採取禁止指定種』は自然公園法第20条第3項第11号に基づき、国立・国定公園の特別地域において環境大臣が指定し、採取や損傷が規制された高山植物その他の植物（いわゆる「指定植物」）を指します。指定植物は公園ごとに選定されており、この本では「山陰海岸国立公園」「大山隠岐国立公園」「氷ノ山後山那岐山国立公園」「比婆道後帝釈国立公園」のいずれかで選定された植物に表示しています。

鳥取県条例採取禁止指定種ならびに上記4公園における個別種の指定状況は「13. 維管束植物」節の最後に一覧表として掲載しました。

#### ■引用文献

- 小林禧樹（2017）テンナンショウとともに30年—ヒガシマムシグサ群の調査・研究からみえてきたもの—。Bunrui, 17(2): 113–127.
- 邑田仁・米倉浩司（2012）日本維管束植物目録。北隆館。
- 松本哲也・坂田成孝（2020）鳥取県東部で発見されたマイヅルテンナンショウ（サトイモ科）。植物研究雑誌, 95: 58–60.
- 永松大・坂田成孝・矢田貝繁明・谷亀高広・有川智己（2013）大山に自生する希少植物の検討。鳥取県立博物館研究報告, 50: 45–53.
- 永松大・坂田成孝・矢田貝繁明（2016）鳥取砂丘でのハマハナヤスリの再発見と鳥取県内でのトラノオズカケとヤナギスブタの新規確認。山陰自然史研究, 12: 22–25.
- 永松大・矢田貝繁明・坂田成孝・汐田達哉・廣江伸作・本池祐貴・井上喜美子（2018）鳥取県内におけるスブタ、エゾナミキ、オオバシナミズニラの新規確認とクラガリシダ、ミズアオイの再発見。山陰自然史研究, 15: 41–45.
- 米倉浩司・梶田忠（2003—）「BG Plants 和名—学名インデックス」(YList), <http://ylist.info>

**スギラン** ヒカゲノカズラ科  
*Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



智頭町 2020.6.1 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：着生に適した古木がナラ枯れや台風被害などによって減少傾向にある。さらに倒伏した古木からの採取や着生環境の激変により個体数の減少が危惧される。

■**特徴**：深山のブナ、ミズナラなどの古木に着生する常緑性のシダ植物。茎は叢生し、通常数回又状に分岐する。直立か斜状、まれに下垂し、長さ10-30 cm。葉は深緑色で革質、線形または線状披針形。上部の葉ほど次第に短く細くなる。孢子葉は通常小枝につく。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、鳥取市佐治町、琴浦町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州に分布するがまれ。

■**保護上の留意点**：ブナ帯の自然林の保護と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

**ヒメスギラン** ヒカゲノカズラ科  
*Huperzia miyoshiana* (Makino) Ching

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省：—



氷ノ山 2021.7.18 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では氷ノ山や大山のブナ林下のごく限られた岩場や林床に少数見られるのみで、個体数も減少している。氷ノ山では2000年代から減少しておりシカの増加による生育環境悪化が考えられる。大山の生育状況は比較的安定している。

■**特徴**：ブナ林下の林床や苔の生えた岩場に生える小型の常緑性シダ植物。茎は又状に分枝し、直立、頂端に芽体をつける。葉は針状披針形で基部から細くなり鋭頭、全縁。孢子嚢は茎の上部の葉腋につける。類似のスギランは、樹上着生が多く、葉が狭披針形で中央部が最大となる。平地から山地にふつうにみられるトウゲシバは、葉の辺縁に不規則な鋸歯がある。

■**分布** 県内：若桜町、大山町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林及び山頂部の自然植生保護と採取防止。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

**ミズスギ** ヒカゲノカズラ科  
*Lycopodiella cernua* (L.) Pic.Serm.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省：—



南部町 2020.9.13 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：日当たりのよい裸地や草地に生育するが、生育地の自然遷移により適地が減少。

■**特徴**：日当たりのよいやや湿った裸地や低茎の草地に生育する常緑シダ植物。切通しや崖地、土取り場跡などに見られる。匍匐枝は地表をはい、ところどころ地について直立した側枝(直立茎)を出し、まばらに根をつける。直立茎の高さは暖地では50 cmを超えるが、県内では通常30 cm以内。孢子嚢穂は長さ5-10 mmの卵形で小枝の先に1-2個つき下垂する。よく似たヒカゲノカズラと同所に生育することもあるが、ヒカゲノカズラは大型で孢子嚢穂が直立することで見分けられる。

■**分布** 県内：八頭町、湯梨浜町、米子市、南部町。県外：北海道-九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：日当たりのよい草地、裸地の維持。

執筆：赤井伸江

## アスヒカズラ ヒカゲノカズラ科

*Lycopodium complanatum* L.

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



兵庫県宍粟市 2021.6.10 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：日野郡生物誌では1950年代には「日野郡の海拔1000 m以上の高所に必ずあり」とされていた。その後1980年代前半まで朝鍋鷲ヶ山(1074 m)の山頂部で生育が確認されていたが、周辺の開発による環境変化で絶滅した。その後は県内では発見されていない。

■**特徴**：地上性の小型常緑シダ植物。日当たりの良い山地に生育し、茎はひも状に長く地上をはい、多数の側枝が分枝、斜上して扇形に広がる。和名は扁平な直立茎をアスナロに見立てたものとされている。

■**分布** 県内：絶滅。県外：北海道、本州(中部以北)。兵庫、岡山、島根、徳島の各県にも生育地が点在する。

■**文献**：9。

執筆：矢田貝繁明

## マンネンスギ ヒカゲノカズラ科

*Lycopodium dendroideum* Michx.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2021.7.1 / 撮影：加藤修

■**選定理由**：県内では大山、氷ノ山、東山などの高海拔地に生育する。県内東部ではシカ食害により植生が貧弱化しており、生育環境の悪化が危惧される。園芸用採取のおそれもある。

■**特徴**：ブナ帯域の林床や陽地に生育する常緑の小型シダ植物。茎は主軸と側枝に分かれる。主軸は地中を長く匍匐し、側枝は直立して5-15 cm程度、上半部はよく分枝し、全体が樹木状となる。孢子嚢穂は小枝の先に一個頂生する。和食料理の飾りなどにも使われる。東山ではシカ食害によってチシマザサが枯死した林床でマンネンスギの食害が観察されている。

■**分布** 県内：高海拔地に点在。県外：北海道-九州、屋久島。

■**保護上の留意点**：ブナ帯の自然林の保護と採取防止。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

## カタヒバ イワヒバ科

*Selaginella involvens* (Sw.) Spring

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2017.4.20 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：山地のやや湿った岩上、樹幹上に生える。園芸目的で採取されることがあり、注意が必要である。

■**特徴**：岩上、樹幹上に生育する常緑性でやや硬質のシダ植物。茎は地下茎と地上茎からなり、地下茎はコケの下や地中を長く匍匐し、先端は直立して地上茎に伸びる。地上茎は直立して長さ30 cmほど。3-4回羽状に分岐して、卵形または長卵形の葉身状に広がる。孢子嚢穂は四角柱状。人里近くではカタヒバに似た栽培起源のイヌカタヒバが増えている。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、智頭町、湯梨浜町、三朝町、倉吉市、伯耆町、南部町、江府町、日野町。県外：本州(福島以南)、四国、九州、琉球列島。

■**保護上の留意点**：採取防止。

執筆：前田雄一

ヒモカズラ イワヒバ科

*Selaginella shakotanensis* (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町 2014.7.17 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：西日本ではまれな種で、県内では三徳山の岩場で確認されているのみ、個体数も少ない。2016年に発生した鳥取県中部地震後の登山道変更などで登山者の踏みつけなどが生じ、個体群が減少傾向にある。

■**特徴**：やや湿った岩上に生育する常緑性の小型シダ植物。細い円柱状の茎がよく分枝して岩上に広がり、重なり合ってマット状になる。葉は長さ1 mmほどの線状で硬い。湿潤時には開出するが、乾燥時は縮れた状態になる。

■**分布** 県内：三徳山（三朝町）。県外：北海道，本州（中部以北），西日本では，奈良，京都，広島，島根（隠岐）に隔離分布する。

■**保護上の留意点**：生育地の環境維持，登山者の踏みつけおよび採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：59。

執筆者：矢田貝繁明

イワヒバ イワヒバ科

*Selaginella tamariscina* (P.Beauv.) Spring

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2021.6.26 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内では山地の岩壁に着生するが、崩落や採取などで減少してきた。近年の調査努力により県内での自生確認地点は増えているが、以前の状態にまで回復はしていない。

■**特徴**：やや湿った岩壁に着生する常緑シダ植物。ヒバに似た形状の葉を放射状に展開させる。乾燥してくると葉を内側に巻き込んで縮め、環境悪化に耐える。寒さにも強く丈夫である。調査が進んで確認地点は増えつつある。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市，河原町，佐治町），若桜町，三朝町，琴浦町，江府町，伯耆町，日野町，日南町に点在。県外：北海道—沖縄。

■**保護上の留意点**：園芸的な人気が高く採取に注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：岡田祐哉

ミズニラ ミズニラ科

*Isoetes japonica* A.Braun

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



伯耆町 2018.9.22 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：水田環境の変化，ため池など水湿地の減少や状況変化により，県内東部では自生地が減少した。中部，西部には残っているが，県内の自生地と個体数はともに極めて少ない。

■**特徴**：ため池，水路，水田などに生育する夏緑性のシダ植物。針状の柔らかい葉が多数叢生し，高さ10–30 cm，水深により変異する。外見はニラに似る。葉の基部は白色で卵状にふくらみ，内側に胞子囊が見られる。水中性だが渇水期には水の引いた場所でも見られる。鳥取市周辺ではため池の埋め立て，用水路の改修等で激減した。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市，河原町），北栄町，大山町，伯耆町，南部町など低地の水湿地。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ため池や水田周辺の水湿地の改変の防止。

執筆者：坂田成孝

## オオバシナミズニラ ミズニラ科

*Isoetes sinensis* T.C.Palmer var. *coreana* (Y.H.Chung et H.K.Choi) M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



円内は大孢子。 大山町 2021.9.24 /撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では2017年に発見され、生育地は2カ所に限られる。個体数もごくわずかである。生育地の管理方法によっては絶滅の危険性がきわめて高い。

■**特徴**：ため池や湿地に生育する多年生の沈水-湿性植物。草丈15-50cm程度になる。ミズニラ科の多くが似た外部形態をしており、形態での識別は不可能だが、大孢子表面が不規則に配列した鶏冠状隆起になる。また、シナミズニラとの判別は、染色体(2n=66)を確認する必要がある。

■**分布** 県内：大山町。県外：本州(茨城県、岡山県以西)、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の環境保護、採取防止。

■**文献**：68。

執筆：汐田達哉

## ヒメハナワラビ ハナヤスリ科

*Botrychium lunaria* (L.) Sw.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山町 2013.6.28 /撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：西日本での生育はまれで、県内では大山山頂部の草地にわずかに生育し、分布西限にあたる。生育地では自然崩壊が進行し個体数の減少が著しく、絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：高山の風衝草原などでまれに見られる小型の夏緑性シダ植物。根茎は短く匍匐。高さ10cm内外。葉は1回羽状複葉で1枚、硬質、羽片は3-5対の扇形。孢子葉は穂状に3回羽状深裂。球状の孢子嚢をやや密につける。風衝草原の砂質地に生育していることが多い。

■**分布** 県内：大山(大山町)。県外：北海道、本州(東北部-中部地方)。

■**保護上の留意点**：踏みつけ防止と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

## エゾフユノハナワラビ ハナヤスリ科

*Botrychium multifidum* (S.G.Gmel.) Rupr. var. *robustum* (Rupr. ex Milde) C.Ch.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山 2021.9.14 /撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育地が大山山頂付近の草地に限られ、生育個体数もきわめて少ない。生育地の植生遷移がすすみ、低木が侵入すると絶滅のおそれ大きい。

■**特徴**：高さ20cm程度の冬緑性のシダ植物。栄養葉と孢子葉があり、どちらにも長い柄があって柄は長毛を有する。葉は3-4回羽状複葉。大山山頂部の緑化保全活動により植生(エゾスナゴケが主)が復元した箇所に生育しているが、現存の個体数は10個体以下ときわめて少ない。

■**分布** 県内：大山(大山町)。県外：北海道、本州(関西以東)、四国(徳島、愛媛)。

■**保護上の留意点**：木道以外の踏みつけ防止。

執筆：矢田貝繁明

**ナガホノナツノハナワラビ** ハナヤスリ科  
*Botrychium strictum* Underw.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)  
環境省：—



日野町 2021.7.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、若桜町内で1988年に生育が記録されたが、その後は2009年の調査を含め確認ができていない。県内東部ではシカ食害が激しく現状が心配される。2021年に日野町内で新たに数個体の生育が確認された。

■**特徴**：山地の陰湿な林下に生育する夏緑性のシダ植物。孢子葉と栄養葉は地面で分岐せず、直立する共通柄の先で分岐する。ナツノハナワラビに類似し、同じ分布域に生育するが、分布はより少ない。孢子葉が類似するナツノハナワラビよりも細長く、小羽片の切れ込みも少ない。

■**分布** 県内：若桜町（現状不明）、日野町。県外：北海道、本州、四国（西日本では比較的まれ）。

■**保護上の留意点**：採取防止、除草時の刈り払い防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

**コヒロハハナヤスリ** ハナヤスリ科  
*Ophioglossum petiolatum* Hook.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



南部町 2021.6.26 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：裸地や低茎草地に自生地が限られる。調査がすすみ自生確認地が増えたが、生育基盤の脆弱さは改善していない。

■**特徴**：社寺の境内、墓地などの裸地に生育する夏緑性シダ植物。担葉体（共通柄）から1-2枚の栄養葉と1本の孢子葉を出し、全高10-20cm程度。栄養葉は長楕円形から広卵形、長さ1-6cm、短い柄がある。孢子葉は長さ2-4cm、成熟し細かく横に裂けた状態が棒ヤスリに似ていることがハナヤスリの名の由来。県内では境内、墓地など管理された場所に多く、初夏以降の除草対象になっているが、石畳の隙間などで根茎を残し、生育を維持している。除草による影響よりも利用放棄され植生遷移が進むことで消失する可能性が高い。ハマハナヤスリの変種とされるコハナヤスリと中間的な形態のものがおり、分類は今後の課題。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市鹿野町、湯梨浜町、北栄町、米子市、南部町、日南町。県外：東北地方中部-沖縄。

■**保護上の留意点**：草地、裸地の維持。除草剤の使用に留意。

■**文献**：82。

執筆者：赤井伸江

**ハマハナヤスリ** ハナヤスリ科  
*Ophioglossum thermale* Kom.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
環境省：—



鳥取砂丘 2021.7.30 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：県内では湿った砂地や湿地にまれに自生するのみで個体数も少ない。草原化により生育地が減少するおそれがある。

■**特徴**：日当たりがよく湿性の砂地やまばらな草地に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く、数枚の葉を出し、全高5-20cm程度。担葉体（共通柄）から1-2枚の栄養葉と1本の孢子葉を出す。栄養葉は線形から卵形まで変異が大きく、基部はしだいに狭くなって孢子葉の柄と合体する。葉質は厚い紙質。孢子葉は長さ2-4cm。県内では鳥取砂丘内のやや湿った砂地と、西部の湿地に生育する。鳥取砂丘では植生管理が行われているが、西部の湿地では遷移が進んで草原化しつつある。

■**分布** 県内：鳥取砂丘、米子市、伯耆町、日野町。県外：北海道-沖縄。

■**保護上の留意点**：生育地の草原化の防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：67。

執筆者：赤井伸江

## ヒロハハナヤスリ ハナヤスリ科

*Ophioglossum vulgatum* L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2021.5.8 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：近年，西部で1カ所自生が確認された。自生地は広葉樹林の林床で環境変化の懸念は少ないが，県内では他に生育が確認されていない。

■**特徴**：林内や原野に群生するシダ植物。4月中頃から葉を生じ，6月下旬には枯れてしまう春植物。根茎はまばらであまり発達せず，1枚の栄養葉と1本の孢子葉を出し，全高10–30 cm程度。栄養葉は長さ5–10 cm，広披針形から広卵形，基部は孢子葉の柄を包むかまたは合体する。葉質はやわらかく薄い紙質から草質。孢子嚢穂は長さ2–4 cm。孢子の外膜に粗い網目模様があり，こぶ状の突起があるように見えることで他のハナヤスリ属と見分けられる。

■**分布** 県内：南部町。県外：北海道–九州。

■**保護上の留意点**：生育地の伐採や開発など土地改変の防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：赤井伸江

## マツバラン マツバラン科

*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



南部町 2020.5.24 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：近年，西部の3カ所で自生が確認された。自生地と個体数はごく少ないうえに，地上部の消長が著しく，絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：暖地では樹幹に着生するが，県内では地生や岩隙生の多年生常緑シダ植物。根茎は密に又状分岐し，褐色の仮根を生じ，ところどころに地上茎をつけ葉はない。地上茎は直立または下垂し，二又分岐を繰り返す。高さは5–15 cm。単体孢子嚢群は3室で，枝に単生し径1.5–2 mm。県内の生育地は管理された神社境内の裸地と岩隙，杉林，竹林。本種は江戸時代より，園芸栽培の歴史があり倉吉や米子では栽培起源の個体が知られていた。今回確認された自生個体が逸出起源の可能性はあるが，近隣に栽培情報はなく園芸品種がもつ形態的な特徴もみられない。

■**分布** 県内：伯耆町，南部町。県外：本州（宮城県・石川県以西の暖地）–沖縄。

■**保護上の留意点**：生育地の開発あるいは管理放棄など土地改変の防止。管理地では除草剤の使用に留意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：赤井伸江

## ヤシャゼンマイ ゼンマイ科

*Osmunda lancea* Thunb.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2021.8.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：ダム建設と園芸用採取のため減少し，初版では野生絶滅とされていたが，その後生育が再確認された。県内の生育地は日野川流域の一部に限られ生育個体数もきわめて少ないため，絶滅のおそれが大きい。

■**特徴**：山地溪流沿いの岩上の隙間に生育する夏緑性シダ植物。ゼンマイに類似するが，小羽片が狭楕円形，先端と基部とも鋭突形，やや硬厚質である。生育地は洪水時には水没する溪岸の岩上で，他の植物の侵入のおそれは少ない。採取防止を図れば現状維持は可能。

■**分布** 県内：日野川流域（日南町，日野町，江府町）。県外：北海道南部，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：園芸用採取防止，ダム建設や河川工事など生育環境の破壊行為の防止。

■**特記事項**：初版(2002)野生絶滅，国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

**デンジソウ** デンジソウ科  
*Marsilea quadrifolia* L.

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



栽培 2021.8.30 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：過去には県内各地で見られ、1995年には八頭郡内の一部に生育が確認されていたが、2000年前後の初版調査時にはどこでも確認できなくなり絶滅とされた。

■**特徴**：水田や池沼、溝などの水湿地に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は細かく泥土の中や地表をはって伸びる。葉は茎に疎らにつき4枚の小葉が「田」の字に見え、夜間は閉じる。葉柄は5-30 cmであるが、浮葉の場合は水深に対応して50 cm程度まで長くなる。繁殖力は旺盛で群生するが、除草剤に弱い。

■**分布** 県内：絶滅。県外：北海道-九州の低地。

■**文献**：100.

執筆者：矢田貝繁明

**オオアカウキクサ** サンショウモ科  
*Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



鳥取市 2006.7.7 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：50年ほど前には、八頭町内などで本種が繁茂し水田が赤くなる現象が見られた。その後の水田環境変化により県内での確認地はなくなった。2004年に鳥取市水尻池西側の水田に集団が見つかり鈴木武博士により在来の但馬型と同定された。冬季は周囲からかん養される用水路内で生育し夏季の湛水中は水田の取り入れ口付近に繁茂が見られたが、2007年以降当該水田は休耕となりそれ以降毎年の調査で見つからないため、絶滅と判定されている。

■**特徴**：絶えず水が流れる水路や水田に群生する多年生の浮遊植物。夏は緑白色であるが秋から冬にかけて赤色になる。ヒノキの葉のように見え、楕円形で無柄、密生して折り重なるようになる。根毛が早期に脱落する。県内では一時、アゾラーアイガモ農法にともなって根毛が発達するアメリカオオアカウキクサが広がった。特定外来生物指定により減少したが、県西部では見られるようである。

■**分布** 県内：絶滅。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：外来のアメリカオオアカウキクサは駆除が必要。

執筆者：坂田成孝

**オウレンシダ** コバノイシカグマ科  
*Dennstaedtia wilfordii* (T.Moore) Christ ex C.Chr.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



八頭町 2012.8.27 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：深山の河川沿いの岩場や石垣に生育する。河川改修等により自生地が減少し、絶滅の危険性がある。

■**特徴**：深山の湿潤な岩上、ときには林床にも生育する夏緑性の小型シダ植物。根茎は細く、長く匍匐する。葉身は長さ10-30 cm、2-3回羽状複葉。羽片は広卵状の菱形で柄があり、裂片は深く切れ込む。孢子囊群は裂片の先端部につき、胞膜はコップ状。近年、新たに八頭町の河川沿いにまとまった生育地が確認された。大切に見守っていく必要がある。

■**分布** 県内：八頭町。県外：北海道-九州。

■**保護上の留意点**：山地の湿潤な岩場や周辺の自然林保護。

執筆者：前田雄一

## オオフジシダ コバノイシカグマ科 *Monachosorum flagellare* (Maxim. ex Makino) Hayata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2013.11.18 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地帯にのみ生育し、自生地は限られる。シカ食害により個体数の激減が危惧される。

■**特徴**：樹陰の湿り気のある岩上や露岩地に通常群生する常緑性のシダ植物。葉身は長三角形、長さ20–60 cm、幅7–20 cm。薄い草質。最下小羽片は前側（上先）につき、中軸に無性芽をつけることはない。若桜町にあった群生地はシカ食害によって消滅した。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町。 県外：関東以西の本州、四国、九州に分布するが、ややまれ。

■**保護上の留意点**：森林伐採の防止。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

## フジシダ コバノイシカグマ科 *Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2021.10.2 / 撮影：一澤麻子

■**選定理由**：自生地・個体数ともに限られる。工事による生育地の改変や自然災害による崩落で失われた自生地もある。シカの食害も疑われる。

■**特徴**：樹陰となる地上や岩上に生育する深緑色の常緑性シダ。空中湿度の高い谷沿いの岩上や古い転石上、倒木上などに群生する。葉柄は光沢のある紫褐色でほぼ無毛。葉は束生し、薄い紙質で幅2–3 cm、長さ15–30 cm程度で単羽状複葉、線状披針形。つる状に伸びた葉先に無性芽を形成する。この無性芽が接地すると発根し新たな個体となり群生する。孢子囊群は小さい円形で歯片に1個ずつつく。

■**分布** 県内：八頭町、智頭町、倉吉市。 県外：本州（福島県・関東以西）、四国、九州。中国、台湾。

■**保護上の留意点**：自生地森林の保護。

■**文献**：108。

執筆：一澤麻子

## ハコネシダ イノモトソウ科 *Adiantum monochlamys* D.C.Eaton

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2017.7.27 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の分布地はごくまれで生育個体数は少なく、採取圧もあって絶滅が心配される。

■**特徴**：山地のやや乾いた半日陰の岩崖に生育する常緑性の小型のシダ植物。根茎は短く、葉は下方に垂らし気味になる。葉は三角状卵形、長さ20 cm程度、3回羽状に分岐する。小葉は倒卵状三角形、葉柄は紫褐色で光沢がある。利尿・通経の民間薬として利用される。県内では見られないが温室で栽培されるホウライシダに似て観賞価値がある。栽培は難しい。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：観賞価値が高く薬草として利用されることから盗掘の可能性が高い。厳重な採取防止と自生地一帯の植生保護が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：59。

執筆：坂田成孝

**タキミシダ** イノモトソウ科  
*Antrophyum obovatum* Baker

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



鳥取県内 2019.4.3 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：全国的にも希少な種で園芸用採取圧が強い。県内では種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく少ない。生育環境の変化による絶滅の危険性も大きい。

■**特徴**：やや陰湿な溪流沿いの岩場に着生する小型の常緑性シダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。葉身は厚質で、長さ10 cm程度の倒卵状長楕円形。葉脈は網目状で、中肋が不明瞭。基部はくさび形で葉柄に流れる。現在生育が確認されている生育地はきわめて少なく、生育個体数もわずかである。

■**分布** 県内：非公開。 県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の公表禁止、厳重な採取防止、生育環境の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

**ヌリトラノオ** チャセンシダ科  
*Asplenium normale* D. Don

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2015.8.28 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地域に生育するが、他では極めて少ない。園芸目的に採取されることも多い。シカの食害も見られる。

■**特徴**：谷沿いの湿った岩上に群生する常緑性のシダ植物。根茎は短く、単羽状の葉を叢生する。葉身は披針形、長さ40 cmまで、幅4 cmほど。中軸の先端近くに無性芽をつける。羽片は開出、無柄、三角状長楕円形。葉柄は針金状で漆塗りのような紫褐色光沢がある。同所にアイヌリトラノオ（ヌリトラノオとカミガモシダの雑種）が多くみられる。アイヌリトラノオは両種の間隔的な形態を持つが、葉身が40 cmを越すものが多く大型である。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、若桜町の三郡変成岩地帯。 県外：本州（茨木県以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島—ヒマラヤ。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地山沿いの岩崖地と自然林の保護。

■**文献**：114。

執筆者：坂田成孝

**カミガモシダ** チャセンシダ科  
*Asplenium oligophlebium* Baker var. *oligophlebium*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2020.6.2 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内東部の古生層（三郡変成岩）地帯に生育し、自生地は限られる。園芸目的で採取されることがある。

■**特徴**：やや湿った岩上などに生育する常緑性の小型シダ植物。ロゼット状に叢生し、葉は全長10–30 cm。葉柄・葉軸は細く、羽片は細長く波状に縮れ、切れ込みが深く、前側の耳片は著しく、しばしば遊離する。胞子嚢群は歯片の中に入ることもある。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、若桜町。 県外：本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地谷沿いの岩崖地の保護。

執筆者：前田雄一

### クモノスシダ チャセンシダ科 *Asplenium ruprechtii* Sa.Kurata

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



米子市 2017.12.9 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の確認されている生育地は1カ所で個体数は小数である。全国すべての都道府県で生育が確認されており、県内での生育状況について引き続き調査が必要である。

■**特徴**：日本全土に分布し、主に石灰岩地域の岩壁などに着生する常緑の小型シダ植物。葉の幅は1-2 cmで、先端が長く糸状に伸びて周辺の岩壁に付着し先端付近から新しい個体を発生させる。県内での生育状況はよくわかっておらず、本種に着目した詳しい調査が必要である。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：除草による除去の防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

### ミヤマワラビ ヒメシダ科 *Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex Rydb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2013.6.28 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での生育は高地尾根沿いの岩場や林縁に限られる。東部の氷ノ山、沖の山ではシカの食害により絶滅した可能性がある。

■**特徴**：ブナ帯域の林縁にみられる夏緑性の小型シダ植物。根茎は長く横走する。葉柄はわら色、有毛。葉身は三角状長楕円形で鋭尖頭。長さ、幅ともに10 cmあまりで2回羽状深裂-全裂。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき胞膜を欠く。県内ではおおむね標高900 m以上の尾根沿いに自生するが、近年シカの食害で県東部では激減。

■**分布** 県内：大山、氷ノ山、沖の山。大山に最も多い。県外：北海道から九州。

■**保護上の留意点**：高標高地尾根沿いの岩場、林縁草地の保護。ニホンジカの適正管理。

執筆：坂田成孝

### ヘイケイヌワラビ イワデンダ科 *Athyrium epirachis* (Christ) Ching

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町 2021.9.21 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：兵庫県から山口県までの狭い地域（中国地方）にのみ生育し、山地の林下にまれに生育する。県内の自生地は2カ所で、チシマザサの繁茂により生育環境が狭まっている。

■**特徴**：山地下に生育する常緑性シダ植物。タニイヌワラビに似るが、葉柄は赤褐色、葉柄基部に黒褐色の鱗片がある。葉身は切れ込みが浅く、1回羽状深裂、披針形、長さ25 cm、幅8 cmほど。江府町の高標高地に50個体ほどが生育している。

■**分布** 県内：江府町。県外：兵庫県、島根県、広島県、山口県。

■**保護上の留意点**：チシマザサ群落の繁茂防止、採取防止、森林伐採の防止、継続的な生育調査。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

**ミヤコイヌワラビ** イワデンド科  
*Athyrium frangulum* Tagawa

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



標本 若桜町 2001.10.4 採集 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の山地常緑広葉樹林下に生育するが、谷間の自然林破壊によって減少していた。近年はシカの食害がひどくなり見つからなくなっている。

■**特徴**：谷間の湿ったところに生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く直立。葉は叢生。葉身は卵形、鋭尖頭、3回羽状に全裂。羽片は披針形。胞膜は不規則な鋸歯縁。谷間にみられるホソバイヌワラビに似るが、ミヤコイヌワラビは小羽片が長楕円形で左右相称、羽軸裏面は無毛。シマイヌワラビには小羽片の中肋上に直立する軟刺毛がある。若桜町の自生地ではシカの食害により林床の草本がほとんど失われている。周辺の谷間もシカの食害がひどく絶滅した可能性がある。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：谷間の自然植生保護。ニホンジカの適正管理、食害対策。

■**文献**：98.

執筆者：坂田成孝

**ミヤマメシダ** イワデンド科  
*Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) Christ

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



大山 2021.6.25 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の自生地は、大山の標高 1300 m 以上の林縁部や灌木帯と山頂草原に限られ、生育個体数も多くない。

■**特徴**：亜高山帯から高山帯にかけてのやや湿った場所に生え、高さ 40–100 cm になる大型の夏緑性シダ植物。葉は 2 回羽状複葉で、胞子囊群は裂片の中肋近くにつく。葉柄には黒褐色で光沢のある振れた鱗片が目立つ。大山の森林限界付近から山頂までの一帯に分布している。

■**分布** 県内：大山（大山町）。県外：北海道、本州（愛知県以北）。

■**保護上の留意点**：自然草原の維持、採取防止。

執筆者：矢田貝繁明

**シマイヌワラビ** イワデンド科  
*Athyrium tozanense* (Hayata) Hayata

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



高鉢山 1990年代 / 撮影：小林一彦

■**選定理由**：県内で確認された自生地は高鉢山に限られ個体数も極めて少ない。初版時に、自然林の荒廃にともない株数が減少していると報告されているが、2000年代以降の確認はできていない。

■**特徴**：陰湿な谷沿いに生育する夏緑性の小型シダ植物。葉身は披針形、長さ 15–20 cm、幅 5 cm 程度、2 回羽状複葉。胞子囊群は裂片の中肋よりにつく。羽片基部の小羽片は内先に出るのが本種の特徴。高鉢山の自生地は、狭く険しい谷沿いの岩場で近づく道がない。自生地は近づくのが容易でなく調査はいちじるしく困難であるため、近年の生育実態は不明である。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町（高鉢山）。県外：本州（福井・岐阜以西）、四国、九州。屋久島以外ではごくまれ。

■**保護上の留意点**：自然林の保護。

■**文献**：114.

執筆者：坂田成孝

## ハコネシケチシダ イワデンド科 *Cornopteris christenseniana* (Koidz.) Tagawa

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2013.7.1 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内東部のスギ植林地，谷沿いの広葉樹林下に生育する。シカの食害により壊滅状態となった生育地もあり，絶滅が危惧される。

■**特徴**：谷間の湿った場所に生育する夏緑性のシダ植物。シケチシダに似るが，葉柄に鱗片が多く，葉身は三角状卵形で3回羽状深裂。胞子囊群は短くて長楕円形。葉は一般的に大きい。智頭町のスギ高齢人工林の林床には，シケチシダ，タカオシケチシダと共に多くの個体が生育していたが，シカ食害によって消滅した。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，八頭町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理。

執筆：前田雄一

## イッポンワラビ イワデンド科 *Cornopteris crenuloserrulata* (Makino) Nakai

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



兵庫県内 2014.9.22 / 撮影：丸岡道行

■**選定理由**：県内では高鉢山の溪谷沿いで確認されたものが唯一の記録。近年の生育確認はできておらず現状不明。

■**特徴**：陰湿なブナ林の林床に生育する夏緑性のシダ植物。葉は叢生し，長さ約40 cm，三角状楕円形で3回羽状深裂。羽片は中央部が最大。基部小羽片は小型，下面羽軸に細い鱗片と毛が混生する。県内の個体群は分布西限。高鉢山の自生地は狭く陰しい谷沿いで近づく道がない。調査が著しく困難なため近年の生育実態は不明。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町(高鉢山)。県外：北海道，本州(中部地方以北)。

■**保護上の留意点**：生育地周辺のブナ林の保護。

■**特記事項**：氷ノ山・扇ノ山山系の鳥取県側では見つかっていないが，兵庫県側で確認されているものを写真掲載させていただいた。

執筆：坂田成孝

## オオメシダ イワデンド科 *Deparia pterorachis* (H.Christ) M.Kato

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



若桜町 1990年代 / 撮影：木原清志

■**選定理由**：若桜町内のブナ林下にて見つかったが，2000年代に入ってから確実な発見例なし。現地の下層植生はシカ食害が多く本種の現状は不明。

■**特徴**：山地の溪谷沿いに生育する夏緑性の大型シダ植物，遺存植物。県内では湿潤な岩上に生育。葉柄は長く，鱗片密生，葉は叢生，長さ50-100 cm。2回羽状深裂，中央部最大，基部に向かい短小。羽片は長楕円形，小羽片は浅一中裂。胞子胞子囊群の包膜は長楕円形-馬蹄形。発見後数十年が経過し現状は不明。既存の種記載から県内での生育は隔離分布のため，丁寧な探索が望まれるが，現地はシカ食害が深刻で検討が困難。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州中部以北。

■**保護上の留意点**：山地溪谷沿いの植生保護。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：調査努力の継続による情報収集が必要。

■**文献**：50。

執筆：山本晴恵

**イワヤシダ** イワデンダ科  
*Diplaziopsis cavaleriana* (Christ) C.Chr.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



若桜町 2012.9.27 / 撮影：前田雄一

- 選定理由**：県内東部から中部に分布する。もともと個体数は少なく、さらにシカ食害により絶滅の危険性が生じている。
- 特徴**：深山の湿り気のある樹林下に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は直立または斜上し、葉は叢生する。葉は長さ 50–140 cm。葉柄は淡緑色で平滑。葉身は薄くて柔らかい草質。側羽片は 6–13 対、隔たってつく。胞子嚢群は脈状にでき、長さ 3–10 mm。若桜町、智頭町はシカの個体数が多く、食害による絶滅が危惧される。
- 分布** 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、三朝町。県外：本州、四国、九州に分布するが、まれ。
- 保護上の留意点**：深山の自然林保護、シカの適正管理。

執筆者：前田雄一

**フクロシダ** イワデンダ科  
*Woodsia manchuriensis* Hook.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



氷ノ山 2015.7.14 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では氷ノ山、三国山のブナ林内岩上に自生するのみで個体数は少ない。自生地周辺の樹木の立ち枯れが目立ち、生育環境の悪化が心配される。
- 特徴**：ブナ林内の岩上や岩隙に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く直立、塊状で鱗片を密生。鱗片は披針形、膜質、淡褐色。葉柄に関節はない。葉は 2 回羽状深裂、狭披針形で無毛、裏面は帯白色。長さ 20 cm 内外で下部の羽片は短い。胞子嚢群の胞膜は球形袋状で和名の由来となっている。氷ノ山の自生地である溪谷岩上では、周辺の倒木により乾燥化が進んでいる。シカの食害で岩上のみ植物が残る場所もあり状況悪化が心配される。三国山ではブナ林の尾根岩上に生育するが個体数は少ない。
- 分布** 県内：若桜町、三朝町。県外：北海道–九州。
- 保護上の留意点**：ブナ林の保全、管理。採取防止。

執筆者：坂田成孝

**イワデンダ** イワデンダ科  
*Woodsia polystichooides* D.C.Eaton

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



大山 2018.6.14 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内では高山の岩場や滝などの岩場周辺に生育が限定されており、個体数も多くない。
- 特徴**：山地の日当たりのよい岩上や石垣などに生育する夏緑性シダ植物。根茎は短く斜上か直立し、多数の葉を束生する。葉柄は 5–10 cm で赤褐色。葉身は狭披針形–線形、鋭尖頭。ソーラスは羽片の辺縁よりに 1 列に並ぶ。県内では高標高域の岩場に多く生育しており、特に大山の岩場に多い。
- 分布** 県内：鳥取市 (国府町、河原町、佐治町)、八頭町、若桜町、三朝町、琴浦町、大山町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：採取防止。

執筆者：矢田貝繁明

## オサシダ シシガシラ科

*Blechnum amabile* Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2012.5 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内の自生地は少ない。現状は維持されているものの園芸目的で採取されることがあり、注意が必要である。

■**特徴**：深山の岩盤上に生える常緑性のシダ植物。生育適地でしばしば群生する。根茎は匍匐し、孢子葉と栄養葉の2形である。葉身の先端は急に狭くなって尾状にのびる。栄養葉の羽片は厚く、中肋は表面に溝もなく、裏面で隆起もしない。類似するシシガシラは、中肋に溝があり、裏面で軽く隆起する。

■**分布** 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、三朝町、日野町。県外：本州（鳥取県以東）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止、山地谷沿いの岩崖地の保護。

執筆：前田雄一

## ミヤマシシガシラ シシガシラ科

*Blechnum castaneum* Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市河原町 2020.8.12 / 撮影：時岡昭人

■**選定理由**：県内では生育地が少なく個体数も多くない。自然林の伐採や溪谷の荒廃等で生育立地が失われつつある。

■**特徴**：ブナ帯域の陰湿な溪谷の斜面に生育する常緑シダ植物。シシガシラが県内全域の平地から山地の比較的明るい場所でふつうにみられるのに対し、ミヤマシシガシラは県内東部の標高 1000 m 前後の冷涼で暗く湿った場所にごくまれにみられる。シシガシラの孢子葉が栄養葉と同程度の長さであるのに対し、ミヤマシシガシラの孢子葉は栄養葉の2倍程度の長さがある。ミヤマシシガシラの栄養葉はざらつきのある暗緑色で葉柄、中軸下部が紫褐色といった特徴がある。

■**分布** 県内：扇ノ山、鳥取市河原町、若桜町。県外：関東—北陸、山陰（広島県以北）。

■**保護上の留意点**：ブナ帯地域、溪谷沿いの植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：時岡昭人

## ヒロハヤブソテツ (狭義) オシダ科

*Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa var. *macrophyllum*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2020.6.30 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内で確認されている自生地は3カ所で、個体数は少ない。若桜町ではシカによる食害が見られ、絶滅のおそれがある。

■**特徴**：やや陰湿な山地谷間に生育する常緑性のシダ植物。葉は単羽状複葉。側羽片は卵形で基部は円く短柄、大型で少ない。頂羽片は大きいのがふつう。類似のツクシヤブソテツは羽片数が多く長楕円形、基部は円みがなく広くさび形、頂羽片は小さく耳垂が発達しない。若桜町の自生地はシカの食害にあい、成葉がほとんど食べられたのが観察された。翌年は葉が大きくなり孢子がつくまで回復したが、この先の状況を注視していく必要あり。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町、江府町内の低標高地。県外：本州（中部以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止、山地の谷沿いの自然林保護。ニホンジカの適正管理。

執筆：坂田成孝

**ミヤコヤブソテツ** オシダ科  
*Cyrtomium yamamotoi* Tagawa

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



鳥取市福部町 2021.2.14 / 撮影：浜橋和子

■**選定理由**：県内では自生地が少なく、個体数も少ない。空中湿度の低下に弱く、森林伐採や河川改修にともなって減少している。

■**特徴**：丘陵地の照葉樹林の陰湿地に生育する大型の常緑性シダ植物。葉はやや白っぽく、単羽状複葉、長さは30–60 cm。羽片は10–15対。基部が最も広く、耳状突起は上部にいくほど発達している。ソーラスは円形。胞膜の中心が黒褐色で、2層に見えることが特徴。樹木の伐採やモウソウチクの侵入により、生育が圧迫されている。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市福部町、三朝町、南部町、江府町。県外：関東・北陸以西の本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：丘陵地の照葉樹林保全。

執筆者：浜橋和子

**ハチジョウベニシダ** オシダ科  
*Dryopteris caudipinna* Nakai

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



鳥取市 2020.12.6 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：暖地の社寺林など県内の自然性の高い照葉樹林に点々と生育する。自生地も個体数も少ない。

■**特徴**：照葉樹林下に生育する常緑性のシダ植物。暖地の林床に多産するベニシダに似るが、やや葉身が大きく、小羽片の幅が狭くて、隙間が空く特徴がある。正確な同定を期すためには形態に加えて、胞子囊あたりの胞子数64個を確認する。よく似た形態を持つベニシダの胞子数は32個。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、青谷町、倉吉市、琴浦町、大山町。県外：関東地方以西、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自然性の高い照葉樹林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：前田雄一

**キヨズミオオクジャク** オシダ科  
*Dryopteris namegatae* (Sa.Kurata) Sa.Kurata

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



倉吉市 2020.11.22 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では低地の照葉樹林帯植林地で確認されているが、自生地と個体数ともに少なく、人為による環境変化が心配される。

■**特徴**：広葉樹林の林床に生育する常緑性のシダ植物。葉柄や中軸の鱗片は黒色、光沢がありほぼ全縁。葉は単羽状複葉、長さ70 cm程度、中央部で最大幅となる。上面葉脈の陥入が顕著。胞子囊群は羽片の辺縁と羽軸の中間から羽軸よりにつく。イワヘゴとオオクジャクシダの中間的な形質をもつとされる。イワヘゴは下部の羽片は短くならず上面葉脈はあまりくぼまない。オオクジャクシダの胞子囊群は羽片の辺縁より数対が並ぶ。

■**分布** 県内：倉吉市、米子市の広葉樹林。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：低地の広葉樹林保護。

■**文献**：98。

執筆者：坂田成孝

### アツギノヌカイトチシダマガイ オシダ科

*Dryopteris simasakii* (H.Ito) Sa.Kurata var. *paleacea* (H.Ito) Sa.Kurata

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2019.6.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：若桜町山地の岩場に生育するが、生育地が限定的である。林床ではシカの食害により消滅、岩上のみ生育。

■**特徴**：山地の岩場に生える常緑性シダ植物。葉柄や中軸に赤褐色の全縁の鱗片が密生する。葉は2回羽状複葉、表面に光沢がありやわらかい草質。小羽片は基部が耳状になり羽軸に直交する。胞子は中肋と辺縁の中間につく。よく似たサイゴクベニシダは葉柄の鱗片に突起があり、羽片は中軸に対して直交しない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（東海地方—山口県）、四国。

■**保護上の留意点**：低山地の岩場の自然林の保護。ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆：坂田成孝

### ナガバノイトチシダ オシダ科

*Dryopteris sparsa* (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze var. *sparsa*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2020.11.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地は鳥取市低山谷間の1カ所のみ。八頭町にあった自生地はシカの食害により絶滅した。

■**特徴**：暖帯性の常緑性シダ植物。根茎は短く葉を叢生する。葉は卵状長楕円形、上部は急に狭くなる。羽片は2回羽状深裂、最下羽片は三角形、羽状に深裂。鱗片は膜質、淡褐色、披針形、胞子嚢は全面につく。山地に多産するミヤマイトチシダは、鱗片が暗褐色、胞子葉は羽片間隔が広く、胞子嚢は上半分のみ。本種は染色体数の種内変異が報告されており、種の進化を解明する上でも日本海側の自生地は重要だが、シカ食害等で絶滅が心配される。

■**分布** 県内：鳥取市低山地の谷間。県外：関東以西の主に太平洋側暖地。日本海側では稀産。

■**保護上の留意点**：生育地の広葉樹林の保護とウラジロなどの繁殖抑制。ニホンジカの適正管理。

執筆：坂田成孝

### ホソイノデ オシダ科

*Polystichum braunii* (Spenn.) Fée

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2012.7.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中部地方以北に産し、大山に隔離分布する。大山における生育環境は限定的で不安定なため、絶滅が懸念される。

■**特徴**：大山の標高1200m以上の低木林下に見られる夏緑性シダ植物。大山北側の尾根上、風の通りやすい低木の下に生える。崩落が続く尾根で、生育範囲はせまく、個体数は少ない。イノデ類の葉はふつう直立するが大山では風当たりが強く、地面にはう傾向がある。根茎は塊状。葉柄の鱗片は淡褐色で膜質、披針形—長楕円状披針形で全縁か細鋸歯縁がある。葉は叢生し2回羽状複葉、羽片は中部が大きく下部に向かって短くなる。小羽片は鈍頭で細鋸歯縁があり先は芒状。キャラボク林下に生えるカラクサイノデは小羽片が鋭頭、辺縁には深い鋸歯がある。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）、山口県。

■**保護上の留意点**：大山山頂部の自然植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

**ツルデンダ** オシダ科  
*Polystichum craspedosorum* (Maxim.) Diels

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



鳥取市佐治町 2019.8.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：個体群は小規模で離散的である。若桜町，鳥取市佐治町，日南町で確認されているが個体数は少ない。個体数も減少気味である。

■**特徴**：山地の陰湿な岩上の隙間に根を下ろして小さな群落を形成する。岩上より数枚の葉を垂れ下げる。葉は線状披針形で長さ 20 cm ほど。葉身先端部の羽片は短くなり先端は中軸だけになって無性芽をつくり，新たな個体を形成する。県内自生地の個体群はいずれも小規模である。ここ 10 年は比較的安定しているものの，それ以前からすると個体数は減少してきている。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町，若桜町，日南町。県外：北海道，本州。中国，朝鮮，沿海州。

■**保護上の留意点**：溪谷谷沿いの岩場およびその周辺の自然植生の保護。

執筆：坂田成孝

**カラクサイノデ** オシダ科  
*Polystichum microchlamys* (Christ) Matsum.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)  
環境省：—



大山 2012.9.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中部地方以北に産し，大山に隔離分布する。県内では大山山頂部にのみ生育し，個体数も少ない。

■**特徴**：大山山頂部のキャラボク林下に生育する夏緑性のシダ植物。個体数はわずかである。葉は斜上して叢生する。葉柄は葉身より短い。鱗片は薄膜質，淡褐色で上にいくほど赤みがかり，幅が狭い。葉身は長楕円形—広披針形で 2 回羽状細裂—中裂，中部の幅が広い。小羽片は羽軸に翼となり，卵形で鋭頭，浅—深裂，先は芒状になる。胞子は羽片の中肋よりにつく。大山尾根に産するホソイノデは小羽片が鈍頭，辺縁は浅い鋸歯縁—全縁。大山での分布は 1964 年の鳥取県博物館所蔵標本で確認できるが，キャラボク林下の生育調査は困難なため，今後も継続的な調査が必要である。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道，本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：大山山頂部の自然植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

**シノブ** シノブ科  
*Davallia mariesii* T.Moore ex Baker

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



智頭町 2021.6.1 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内各地に点在するが，観賞用のシノブ玉をつくる目的などで常に採取圧がかかっており，注意が必要である。

■**特徴**：河川上流部の山地溪谷沿いの乾いた岩上や樹幹に着生する夏緑性のシダ植物。根茎はやや太く，褐色または灰褐色の鱗片で密におおわれる。葉身は三角形卵形，長さ 10—20 cm，幅 8—15 cm，4 回羽状に深裂する。胞子嚢群は裂片の先端につき，胞膜は深いコップ状。智頭町の倒伏木に着生していたシノブは，ごく短期間に採取されて消滅した。

■**分布** 県内：鳥取市，八頭町，若桜町，智頭町，三朝町，琴浦町，江府町，日野町。県外：北海道—沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

## クラガリシダ ウラボシ科

*Dryotaenium miyoshianum* (Makino) Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



三朝町 2020.3.23 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では2000年以前には数カ所で生育が確認されていたが、その後確認が途絶え絶滅とされていた。その後2017年に1カ所で再発見されたが、個体数はごく小形で種の存続は危機的状況にある。

■**特徴**：山地の樹木や岩上に着生する常緑シダ植物。根茎は短く、葉は線形で長さ20–40 cm、断面は半円状で全縁。2017年5月に、ミズメとトチの大径木に着生しているのが確認された。確認されたクラガリシダの株では5–80本程度の葉が確認され、その後も継続的に生育状況が確認できている。

■**分布** 県内：三朝町。県外：本州（中部以西）、四国（愛媛県）。

■**保護上の留意点**：生育地の安定した森林環境の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：68。

執筆：矢田貝繁明

## アオネカズラ ウラボシ科

*Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2021.11.10 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内各地に点在。鑑賞目的の採取、着生する樹木の衰退や岩場の乾燥化で減少している地点がある。

■**特徴**：照葉樹林内の樹幹や岩上に着生するシダ植物。肉質で径が4–5 mmにもなる緑白色の根茎が横走する。夏に落葉し冬緑性。葉身は長さ10–25 cm、単羽状深裂で白毛がある。孢子嚢は大型。日野町の自生地では個体数の増加が観察されている。

■**分布** 県内：鳥取市（河原町、佐治町）、八頭町、湯梨浜町、倉吉市、伯耆町、日野町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。中国南部。

■**保護上の留意点**：採取禁止。地域住民への保護意識の啓発。照葉樹林の保護。

執筆：藤原文子

## ホテイシダ ウラボシ科

*Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



八頭町 2018.9.4 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：深山の樹木および岩上に着生するが、自生地は限られ、個体数は少ない。近年ナラ枯れ等により、着生に適した古木が減少しており、本種も希少化している。

■**特徴**：深山溪谷の岩上や樹幹に着生する夏緑性のシダ植物。根茎は短くは、鱗片はまばら。葉は紙質で、通常黄緑色。葉身は、下部の方が幅広く、葉縁は不規則に波状になることがある。葉柄基部の鱗片は広卵形で、縁には突起を持つ。孢子嚢は円形で、やや葉軸寄りにつく。智頭町の溪流沿いのミズナラ古木に着生していた個体は、ナラ枯れ・倒伏による環境変化によって消失した。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、八頭町。県外：北海道–九州まで分布するが、ややまれ。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然林保護、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

**サジラン** ウラボシ科  
*Loxogramme duclouxii* Christ

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



智頭町 2017.9.9 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内では深山の樹幹および岩上に着生するが、自生地は限られ個体数も少ない。ナラ枯れ等により着生に適した古木が減少している。園芸目的の採取も多い。

■**特徴**：山地溪谷の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ植物。葉身はやや厚く革質。葉は狭い倒披針形。長さ 25 cm 前後。孢子嚢群は線形で、一般的には葉身の半分から上の方につく。智頭町の溪流沿いの生育地は採取によって激減した。

■**分布** 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、三朝町、伯耆町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州、屋久島。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の岩場や自然林保護、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：前田雄一

**クリハラン** ウラボシ科  
*Neolepisorus ensatus* (Thunb.) Ching

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



鳥取市福部町 2021.9.20 / 撮影：一澤麻子

■**選定理由**：県内の自生地は限られる。健全に生育している場所が多いが、過去には消滅した場所もある。

■**特徴**：森林内の湿った林床や岩上に生育する常緑性のシダ植物。横に這う太い根茎から葉が立ち上がり群生する。葉身は単葉で広披針形、鋭尖頭で基部はくさび形。縁はほぼ全縁で波打ち、葉身は堅い紙質。比較的大型で長さ 50 cm にも達する。中肋（主側脈）が明確で肋骨状の凹凸をなし、脈は複雑な網状になる。大型の葉で群生するため個体群衰退の兆候をつかみやすいが、自生地が限られ県内東部では消滅したと思われる生育地もあり注意が必要。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（福部町、河原町、用瀬町）、八頭町、伯耆町、米子市、南部町、日野町。県外：本州（関東以西）九州、沖縄本島。東アジア。

■**保護上の留意点**：自生地の環境改変防止。

■**文献**：94, 108.

執筆者：一澤麻子

**オオエゾデンダ** ウラボシ科  
*Polypodium vulgare* L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)  
環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



湯梨浜町 2021.9.11 / 撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内には他に自生地がなく、全国的にも隠岐と本州北部、北海道に自生するのみ。

■**特徴**：山地の林内樹幹や岩上に生える常緑のシダ植物。県内では日当たりのよい旧海食崖の岩上に生育。葉はアオネカズラやオシャクジデンダに似て卵状長楕円形で羽状に深く切れ込む。根茎は短く横にはう。自生地ではノイバラやキツタに覆われがちで植生管理が必要である。自生環境から乾燥にはある程度耐性があるのではないかと考えられる。

■**分布** 県内：湯梨浜町。県外：北海道、本州北部、島根県隠岐。

■**保護上の留意点**：採取防止、被陰している低木類の除去など自生地の継続的な植生管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：108, 109.

執筆者：磯江茂秋

## イワオモダカ ウラボシ科

*Pyrrhosia hastata* (Houtt.) Ching

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2021.8.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：深山の岩上や樹幹に着生するが、自生地の成熟木伐採にともなって激減した。残ったものも独特な葉の形状のため園芸用に採取されることが多く、手の届く場所には見られない。

■**特徴**：県内では氷ノ山、大山、三国山の深い渓谷の高木に着生する常緑性のシダ植物。根茎は短く横走、葉を接してつける。葉は単葉で3-5裂。葉裏に星状毛が密生、褐色。孢子嚢は側脈に沿ってならぶ。氷ノ山山系では50年ほど前は渓谷沿いのトチノキやミズナラの樹幹に多く見られたが、伐採や枯死のため現在では深い谷間の古木にわずかに着生するのみ。大山東側の渓谷では自然状態が保たれており、自生地の状況は今のところ安定している。2021年に鳥取市佐治町、三国山山系の渓谷で確認された。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、若桜町、琴浦町、大山町。県外：北海道-九州。

■**保護上の留意点**：深山渓谷の自然林保護。特に成熟木の伐採禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

## ビロードシダ ウラボシ科

*Pyrrhosia linearifolia* (Hook.) Ching

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2020.6.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では深山渓谷の樹幹に着生しているものがほとんどで自生地は点在する。園芸目的のために乱獲され、減少している。

■**特徴**：渓谷沿いの岩上や樹上に着生する常緑性の小型のシダ植物。細い根茎が長くはい、長さ10cm程度の単葉をつけて垂れ下がることが多い。葉は線形、先端は円頭、基部に向けて狭くなり、全面に黄褐色の星状毛を密生する。孢子嚢は中肋の両側につく。形はノキシノブに似るが、葉の両面には褐色の星状毛を密生し、これをビロードに見立てたもの。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、八頭町、若桜町、智頭町、三朝町、琴浦町、大山町、伯耆町。県外：北海道から沖縄まで広く点在する。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保護。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

## ツガ マツ科

*Tsuga sieboldii* Carrière

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2021.3.11 / 撮影：時岡昭人

■**選定理由**：太平洋側ではふつうにみられるが日本海側では希少。県内で自生のツガ林として確認されているものは八頭町伊呂宇山の1カ所のみ。

■**特徴**：照葉樹林（暖温帯）と落葉広葉樹林（冷温帯）の移行帯付近にみられる常緑針葉樹。樹皮は網目状-縦方向に粗く裂ける。葉には短い葉柄があり直角に曲がる。葉裏に2本の粉白色の気孔帯が目立つ。球果は2-3cmの楕円-卵型で熟すと真下を向く。モミと混生することがあるが樹皮、葉柄、球果等で見分けることができる。県内では神社等への植栽がみられるが自生は非常に少ない。かつて県内の山地屋根に点在していた自生個体は植林などの際に伐採されて消滅。

■**分布** 県内：八頭町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州（屋久島まで）。

■**保護上の留意点**：近隣住民および林業関係者への啓発。

執筆者：時岡昭人